

ダットスキャン撮影の収集時間短縮が画像に与える影響評価に関する研究

1. 研究の対象

過去1年間(2023年4月1日~2024年3月31日)にSPECT検査のうちダットスキャン撮影を受けられた方

2. 研究目的・方法

パーキンソン症候群およびレビー小体型認知症の診断においてダットスキャンによるSPECT画像が信頼性の高い情報として非常に有用である。当院においても上記対象患者に対して年間100件程度の検査を行っている。しかし本検査では寝台に患者が仰向けになった状態で30分程度の安静保持が必要であり、特に認知症患者や高齢患者にとって負担が大きい検査である。このため患者が安静保持できずに体動が起こることや体力の限界により検査を途中で中断せざるを得ない状況に陥ることがある。このような不完全な収集データにより画質の低下を招く可能性がある。本研究では過去に撮影された患者データを使用して擬似的に収集時間短縮画像を作成する。これらの画像を用いてSBR(Specific Binding Ratio)値および視覚的な変化があるのかを評価し、収集時間短縮が画像に与える影響を明らかにすることを目的とする。本研究により、やむを得ず収集時間短縮した場合の画像への影響を事前に把握することが可能である。また収集時間短縮の影響が小さい場合は日常的な検査の中で収集時間短縮の設定が可能となり患者の体力的な負担を軽減することができる。研究調査期間は、過去1年間(2023年4月1日~2024年3月31日)とする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる情報はダットスキャンによるSPECT画像と電子カルテ上の患者情報(性別、年齢、病歴)とする。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者：公益社団法人脳血管研究所 美原記念病院

画像診断課 診療放射線技師 前村啓介

連絡先：群馬県伊勢崎市太田町366

〔TEL〕0270-24-3355(内線：832)

〔FAX〕0270-24-3359

メールアドレス：mmh-spect@mihara-ibbv.jp

-----以上